

編集後記

< エネルギー特集の編集を終えて >

* エネルギー分野を長期展望にたつて見た場合、エネルギーの安定供給と環境制約を両立させることが、重要なテーマとして位置付けられています。

* そして、エネルギーと環境にまたがる技術開発分野としてハイライトされる課題は、つぎの分野が挙げられます。

- ・ 省エネルギー化
- ・ 資源開発
- ・ クリーン化と環境対策
- ・ 自給率向上

* この最近の流れに対応して、本号ではエネルギー特集号を組み、当社のここ数年間の技術開発の内容を報告させていただきました。当社ではエネルギーに関して、材料・機械・プラントの製造・建設のみならず発電所を初めとするエネルギー関連設備の運用などにも積極的に取り組んできました。

* 2002年より商業運転を開始致しました700MW × 2ユニットの都市型石炭火力発電の神戸発電所については、計画発

表当時から大きな反響を頂いており、今回は様々な面から技術解説を行うとともに、環境に対する配慮、近隣地区への熱供給の様子も紹介いたしました。

* またLNG分野ではLNG基地などで使用される気化器・高圧ALEX・大型ボールバルブやコージェネレーションの最新技術を、石炭分野では最新の褐炭利用技術などの報告を行っています。

* さらに、省エネルギー分野でのスーパーエコセントリや鉄鋼材料分野・溶接材料分野の特徴ある製品群の技術内容もご覧ください。

* この特集号を編集しているときに、プロジェクトXの放映があり、阪神・淡路大震災直後の神戸製鉄所復旧の様子が紹介されました。そのあと、神戸発電所を建設、運転も開始され、当社の新しい時代を迎えております。本特集号についてご意見やご感想を頂ければ幸いです。

(神保 淳)

次号予告

< 原子力特集 >

* 日本のエネルギー自給率向上の方法として、再生可能エネルギーの導入促進とともに、原子力エネルギーの拡大があります。

* 原子力エネルギーの活用のためには、原子力発電所の信頼性、安全性の確保を行い、広く理解と信頼を得ることが重要な課題となっています。

* 安全性の確保が大前提となっている原子力関連分野は、発電設備とそれを構成する機器・部材の設計製作技術や核燃料サイクルの円滑な実施を図るバックエンド対策や輸送・貯蔵キャスクなど広範な技術領域を含んでいます。さらに、将来の課題としての地層処分技術の開発は着実に進んでおります。

* 当社では原子力の持つ様々な分野に取り組んでおり、次号では原子力用材料と機器、処理処分などのプロセス開発の現況を紹介する予定です。

* 先ず、輸送・貯蔵の分野では、当社は

70年代後半から各種のキャスクを開発し製造してきました。これまでの実績を振り返るとともに、最近の開発状況についてもご紹介したいと思います。キャスク関連技術として確立したポロニアルミの製造方法やキャスク以外での活用分野も報告致します。

* また、廃棄物処理の分野では、放射性廃棄物の減容化は重要な課題であり、日本原子力研究所殿に本年納入したプラズマ溶融技術や、核燃料サイクル開発機構殿向けに建設中の低放射性廃棄物処理技術開発施設などを掲載致します。

* これらの内容とともに、被覆管材料に対する当社の材料技術や、将来のテーマである地下処分場における高圧環境に対応した様々な技術分野など当社の取組む最先端の開発内容を特集する予定です。是非ご期待ください。

(神保 淳)

編集委員

委員長	佐藤 廣士
副委員長	吉川 克之
委員	泉 博二
	江藤 武比古
	上窪 文生
	木村 雅保
	神保 淳一
	杉井 謙一
	鈴木 克明
	中川 知和
	松下 行伸
	吉村 省二
	<五十音順>
本号特集編集委員	神保 淳

R&D / 神戸製鋼技報

第53巻・第2号(通巻第204号)

2003年9月1日発行

非売品 < 禁無断転載 >

発行人 佐藤 廣士

発行所 株式会社 神戸製鋼所
コミュニケーションセンター
〒651-8585
神戸市中央区脇浜町2丁目10-26
(神鋼ビル)

本誌はKOBELCO ホームページに全文を掲載しています。

<http://www.kobelco.co.jp/>

印刷所 福田印刷工業株式会社
〒658-0026
神戸市東灘区魚崎西町4丁目
6番3号

お問合わせ先 神鋼リサーチ株式会社
〒651-2271
神戸市西区高塚台1丁目5-5
(株)神戸製鋼所内
TEL(078)992-9764
FAX(078)992-9790
teguchi@rd.kcrl.kobelco.co.jp